



一漁夫

宇都宮義真撮影

讚光譜



३५

神の意志

活力を高める

太陽光線が我等の健康増進に
絶対に必要な事は言を俟たず、

太陽光線は凡ての生物の生活機能を活発にし、代謝機能を亢進させます。血液中の赤血球、

通りですが、細菌の毒素は勿論蛇毒の様なものでさえも、光線に曝せば毒性を失います。これと同様な作用は身体の内部でも認められます。

け離れた生活を余儀なく繰り返している都市生活者に、眞の健康を望む事は、そのまま放置するなら、木によりて魚を求めるが如きものであります。

サナモアは

サナモアは

毎朝 太陽が漸く輝き始めた

来る様になりました。

宇都宮 善直

サナモアが必要

特に都市生活者には

様々な旺盛な生活機転を取り戻す
ようにしなければなりません。
これをなおざりにして、もし
も抵抗力の衰えた身体に病魔が
襲つたら、到底之れと一戦を交え
る体力が無く、脆くも人生の敗残
者になるかも知れません。そうなっ
てからではそれこそ大変です。

有り難いことには、この不思議な威力を持つ太陽光線は、我々の身体に有害に働くものに対しては、我々を保護する様に作用しています。色々な毒物は、光線に照らされると毒力を失い無毒化します。細菌が光線で殺菌されることは日光消毒で分かる

頃曰中でさえも電灯の灯りを要するビルディングや工場の中に吸い込まれ、夕刻、太陽が西方の屋根の間に没する頃になつてやつと建物から吐き出され来る日も来る日も太陽光線とか

昭和9年7月15日発行
「光線」

最近の話題から

見舞い客もびっくり仰天

病院に軽い気持ちで病気見舞いに行くと、病室の扉に入室する際の注意が仰々しく書いてあ

るのを見掛けたようになります。曰く、「病室に入る前に、ゴム手袋とマスクをして、入った。」から、靴をサンダルに履き替えてガウンを着る、「病室を出る前に、ガウンを脱ぎゴム手袋とマスクを捨てて手を洗え」、大体はそんな内容です。

て思いますが、その原因がマーサ（MRSA・メチシリソ耐性黄色ブドウ球菌）です。ただ医師や看護婦の場合、手指や鼻腔から10%前後のマーサが検出されることを考えると当然の注意義務でしょうが、見舞い客が仮に菌を持ち出しても、他の病室に行かないならそこまでしなくとも思いますが、事態はそれほどまでに深刻なのです。

抗生素質による治療が全盛を極めている今日、ありふれた菌に過ぎない黄色ブドウ球菌がこれほど話題になり、人々を不安

した。むしろこの点が、諸外国に比べ、わが国でマーサ感染症が、術後患者を含め、多発した原因として重視されます。

なお細菌は様々な遺伝現象で耐性を獲得しますが、耐性菌の増加は病巣における抗生物質の濃度が不十分な場合および不要に長期間投与した場合に著しいことが知られています。従つて、耐性菌を防ぐ上で重要なことは、適切な抗生物質の使用です。即ち、病巣内抗生物質濃度

の野放図な
使用や、静
脈内留置カ
テーテルな
どの医療行
為が重要な
原因になる
ことが明ら

て抵抗力の衰えた患者で難治な感染症を起こすのです。このマーサの原因として、医師による抗生物質の使い過ぎ、特に第三世代セフェムと呼ばれ

MRSA 感染症

マーサによる感染症は医療に従事する医師や看護婦から、入院している抵抗力の衰えた病人

M R S A は医原病

マーサ(MRSA)の話

医学博士 宇都宮 光明

ります。私
とて、市中
で肺炎（市
中肺炎と呼
ぶことがあ
る）にかかる
たとすれば
抗生素質を
投与して欲

MRSA対策は抵抗力

意外かも知れませんが、今でも死因の四位は老人性肺炎を中心とした感染症です。この事実は抗生物質と言えども抵抗力の衰えた人に効かないことを示しています。また医師や看護婦がマーサにかからぬことからも分かるように、抵抗力があれば感染症を防ぐことが出来ます。光線は黄色ブドウ球菌を殺菌しますし、昔から「日光浴をすれば風邪を引かない」と言いい伝えられていることからも明らかなように、全ての感染症と闘う力を与えてくれます。抗生物質に勝るのが抵抗力であることを忘れてはなりません。

痛みと光線治療

— 患者は真実を語る —

光明 サナモア中央診療所 医学博士 宇都宮

どうして痛むの？ 痛みという感覚は、組織や器官を傷害する侵害刺激に対しても起きる感覚であって、生体保護ないし警戒的意味を持つ感覚ですが、誰しも嫌なものです。そのせいか、痛みは悪者扱いされますが、大半の痛みは生体の復元現象、あるいは防御現象の表れであり、目的的現象と解される症状です。

炎症に伴う痛みを例に説明します。生体には、侵襲によって痛みが発生します。また痛みの中を生き抜くために獲得した優れた防衛システムが備わっていますが、炎症はその中の一つ修復する過程に不可欠なもので、傷害を受けた組織や器官を修復する過程で、傷害を受けた細胞や組織から、修復に必要な物質を血液から動員し易くなる様々な化学物質が放出されます。これを起炎因子と呼び、その作用で起きる炎症に伴う一連の現象に

官を傷害する侵害刺激に対しても起きる感覚である、生体保護ないし警戒的意味を持つ感覚でないし警戒的意味を持つ感覚ですが、誰しも嫌なものです。そのせいか、痛みは悪者扱いされますが、大半の痛みは生体の復元現象、あるいは防御現象の表れであり、目的的現象と解される症状です。

痛みは発生部位から、皮膚や粘膜の痛む表在痛、皮下や関節や骨格筋や筋膜や腱や韌帯や骨膜や血管の痛む深部痛、内臓に原因があつて痛む内臓痛に分けます。また痛みの性質が異なります。また痛みの持続期間から、三週間以上続く慢性痛といい、それより短いと急性痛といいます。

表在痛は、全身の皮膚・粘膜に分布する痛点（平均100～1200/cm²）と呼ばれる痛みを感じる侵害受容器で受けた感覺が、知覚神経を介して大脳皮質の知覚領野に達して痛覚を感じます。なおこの受容器は、痛みだけでなく圧や温度の感覚にも反応しますが、これらの刺激を感じる最低値の2倍以上になると痛みを起こします。表在痛の特徴は、早く感じて早く消えます。即ち、内臓疾患の場合に障害器官の部位で感じる痛み以外に、障害器官から離れた皮膚や深部組織に関連痛・狭窄症の場合に左胸部や左上腕内側が硬くなる一を起こします。

深部痛は、炎症、循環障害によっても反応しますが、これらの刺激を感じる最低値の2倍以上になると痛みを起こします。表在痛の特徴は、早く感じて早く消えると痛みを起こします。表在痛は正確です。

内臓そのものは、切っても、挫滅しても、熱を加えても痛みません。しかし、内臓の内腔の急激な拡張、内臓の平滑筋の伸張や収縮を伴う蠕動運動の異常、腸間膜の伸張、化学的・物理的な刺激、循環障害などで、深部痛に似た局所判別の不良な持続性の汎性の内臓痛を起こします。なお内臓痛は、これまで述べた痛みと異なり、刺激は自律神経によって脊髄に達し、脊髄で知覚神経や運動神経（体性神経といいます）と接觸して刺激を伝えます。このように自律神経と同じ脊髄分節に属する体性神経と連絡があるため、その体性神経が支配する領域の皮膚や筋に一定の規則性を持つ痛みや筋肉の収縮を起こすことがあります。即ち、内臓疾患の場合に障害器官の部位で感じる痛み以外に、障害器官から離れた皮膚や深部組織に関連痛・狭窄症の場

合に左胸部や左上腕内側が硬くなる一を起こします。

光線療法で痛みが消える？

光線を信じて熱心に使えば、痛みは必ず消えます。私は物心のつく前から、何処か痛ければ、それが怪我ややけどのような表

うな深部痛でも、腹痛のようないいと分からぬ感覚です。良くなったかどうかも当人でないと分かりません。英語で“Seeing is believing.”、と言う諺がありますが、直訳すると、見ることは信じること、となり、日本語の“百聞は一見に如かず”と同意語とされます。光線療法の鎮痛効果も試して見れば、“Seeing is believing.”で納得できます。

光線療法が効く理由は

どうして光線療法が痛みに効くのか、その理由を知るよりも、どんな痛みにでも試して見て体験を通して効果を納得して貰うのが一番の近道です。しかし体験した上で光線の作用機序を知れば一層安心して使えますので要点を述べておきます。

光線療法が痛みに効く理由を知るには、どうして痛むかを知ることから始まります。例えば、炎症の際に患部でほぼ共通に認められる所見は、組織の障害、循環障害、組織の再生です。この患部に光線を照射すると、主として赤外線が体内深部にまで透過し、そこを内部から温めます。一方、生体には体温を一定に保つ機能があり、そこを循環する血液やリンパ液を増やして局所

八五ページからつづく

的な体温の上昇を防ごうとします。その結果、局所の循環障害を改善して治癒機転を促しますが、同時にむくみを軽減し、筋緊張を和らげ、老廃物や発痛物質を排泄しますから、即効的に痛みを鎮めます。なお光線の代謝を活発にする効果は、組織の再生を早めますから治療期間を短縮します。内臓痛の場合、光線の温熱効果に加え、痛みのあるところに光線をかけることで自律神経機能を調整し、内臓痛を和らげ、機能を正常化します。